

贅 録(三)

■大阪では西瓜の赤いのが市中到る處にある■桃も中々多く目についた■氷屋の招牌には『凍氷』と書いてある■種類は極少ない『みぞれ』に『ゆき』位のもの、東京のやうに『みかん』『いちご』『れもん』『ぶどう』『あんず』しるゝ、なんてそんなものは一寸見當らぬ■舊式で氷の削つた上へチョコボ〜と甘露水を小柄杓で一、二杯かけるだけさ■それで匙は錆たブリキか■中にはハイカラにアルミニウムもあつたよ■少し招牌を見てあるかう■『ざこく』『ガスト申込所』『大力の』を『ごもくすつべからず』何だか判るかい■判らなくつて『ざこく』は雜穀よ、『ガスト』は街燈さ■『大力の』は洗濯糊の事て『いを』は魚で言葉遣は古へぶりて正しいものさ■『ごもく』は芥で塵芥のとだらう■そんなら『大人小兒、なで』といふのは何のことか知つてゐるか■ム、ム、降參だ■實は僕にも判らない■鳥屋の店頭に白い鳥が籠に入つてゐる、その處に貼紙がある曰く『このとりいろいろこといや〜』■理髪店ではペンキ塗りの男の首が出てゐる■牛肉屋の硝子箱の中に貼札して曰く『にくはうちらにぎょうさんあり』うちらとは内部のとをいふのだ■筋違橋名物『ぼたんもち』とこれは牡丹餅のとて、雜穀を『ざこく』瓦斯燈を『ガスト』と儉約してゐるに似合ぬ■儉約で思ひ出したが大阪の小揚技は馬鹿に長い、通常三寸位ひある、東京のは一寸五分位ひだ、こればかりは不經濟なとだ■ノ〜それは幾度も尖を削つて使へるやうに態と長くして置のだよ■まさか■東京より氣

の利いたとが一つある、それは橋の袂に一方には漢字一方には平假名で兩方に橋の名が書いてある、東京のは片々だけで兩方にはない、これは東京の方が儉約だ■大阪地方の荷車は梶棒が直中に一本で曳く人は綱を肩からかけて、右の手で丁字形の棒の先を持つて梶をとつてゆく、一寸奇だ■片手が空いてゐるので濫色の日傘をさしてゆくのもある■何だか棒の先がキザだ■荷馬車は一人先へ立つて馬を曳き、一人馬の後から梶棒を持つてゆく、二人がゝりはこれ又不經濟といはればならぬ■魚屋も日傘をさしてゐる、何だか魚が腐りそうだ■要するに大阪は統一のない雜駁な都會だ

神秘録(二)

□宿では鱒を澤山食はされた□それは嚙々辛くつて困つたらう□鱒の連中は決して山へ往かず川原へばかりゆく、何故かと聞て見たら咽喉が乾いてやりきれないとさ□下の方がいつても飯を先に食へるといふ利益がある□食事中はお櫃を叩く茶碗を叩く膳を叩く中々大騒ぎなものさ□土瓶がコロゲて茶が流れ出しても誰も構ふものがない□それは酷いね□そんなことを言ふが温泉はよかつたね

群馬縣安中町にて毎月一回丸山氏出張水彩畫研究会を開きつゝあり、出席希望者は安中町根岸橋太郎氏方へ問合せられたし